

静岡県東部地域の活性化を考える

飛躍

平成20年度のあゆみ

CONTENTS

■ ごあいさつ	3
■ 平成20年度のおゆみ	4
<hr/>	
■ 特集I 観 光	
いよいよ開港富士山静岡空港	6
<hr/>	
■ 特集I 観 光	
求められる東部への二次アクセス	8
<hr/>	
■ 特集II ファルマバレープロジェクト	
加速するベッドサイドクラスター	10
<hr/>	
■ 特集III 合 併	
遅れる地方分権の受け皿整備	12
<hr/>	
■ 特集III 合 併	
賑わいの拠点東部コンベンションセンター	14
<hr/>	
■ サンフロントから情報発信	
ラジオEAST	16
新聞特集記事「風は東から」	17
<hr/>	
■ 平成21年度活動方針	18
<hr/>	
■ サンフロント21懇話会名簿	20
<hr/>	
■ 運営委員長挨拶	27

ごあいさつ



サンフロント 21懇話会
代表幹事
スルガ銀行社長

岡野光喜

県東部・伊豆地域の活力ある未来に向け、官民一体となって自由に議論し、交流の輪を広げるサンフロント 21 懇話会は、昨年度道州制に向けた新たな広域行政の推進、政局講演会、そして開港が間近に迫った「富士山静岡空港」をどのようにして地域振興に結びつけていくかを考えるシンポジウムを3回にわたって開催しました。1 回目の伊豆地区分科会を皮切りに東部地区特別シンポジウム、そして、最後に富士地区分科会が開催され、各々の地域特性から見た新空港の在り方や、開港後国内外から訪れる人々に富士山をはじめとする優れた観光資源を魅力あるものとして提供していけるか等、活発なご意見やご提案をいただきました。

昨年、懇話会が静岡県に対し提言した東部地区におけるコンベンション機能の充実、具体的な形で動き出しました。特に大型イベントの誘致合戦は熾烈なものがあります。県内でも静岡市や浜松市が先行し、その機能を有していますが、一極集中ではなく多極分散型で周辺市町の機能を駆使した受け皿づくりが求められています。地域独自の魅力を生かして競合都市との差別化を図っていくためにも、今後一層の知恵と工夫が求められます。

ファルマバレープロジェクトを進める富士山麓エリア（沼津市、三島市、富士市、富士宮市、長泉町）では今後も研究開発や健康関連産業の創出に力を入れ、ウェルネス分野、文化、芸術、景観がもたらす「癒し」効果もプロジェクト推進に必要な視点から研究し、特に、景観の癒しの中で真っ先に挙げられる富士山については世界文化遺産登録運動と関連づけながら議論を深めてまいります。

このほか、将来の「道州制」を見据えた広域行政の在り方にも注目し、積極的なかわりを持っていきます。そして、「富士山静岡空港」を軸とした地域振興を本物にするためにも東部地区の広域な視点で観光を考える観光戦略がますます重要なものになってまいります。「富士・箱根・伊豆を東ねた広域観光の促進」を掲げ、海外からの外国人旅行者、国内遠隔地からの旅行者を迎え入れる受け皿づくりを進め、空港効果を発揮できるよう支援してまいります。会員各位のさらなるご協力をお願い致します。



静岡新聞社・静岡放送
社長

松井 純

リーマンショックとまで言われるアメリカ発世界同時不況の大波は国家存亡の危機に匹敵するほどの衝撃を各国に与えています。日本国内でも大手企業の経常赤字が相次ぎ、投資はおろか緊縮財政を余儀なくされています。加えて正規や非正規社員の切り捨てなど、極めて深刻な事態を招いています。国の予算も21年度予算が成立するや否や補正予算を追加せざるを得ないほど、切迫しています。自民、民主の政権争いが秋の衆院任期切れまでどう展開するのか。麻生首相がいつ、どこで解散のカードを切るのかも注目されることです。表面上は麻生対小沢の戦いに見えますが、国民にとってはこの難局を打開し、少しでも安心して生活できるための「政治」が必要で、民意をしっかりと受け止めリーダーシップを発揮できる人こそが求められています。

国外に目を向けると、オバマ新大統領がいかに米国内に吹き上がっている金融不安を収めて昨年来の課題である個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題の早期解消と、イラクからの米軍撤退などを速やかに進めていけるかが問われています。北京五輪後、経済が鈍化しつつある中国がどれだけの回復力を示せるのか。中国に進出している県内企業も多いだけに、中国経済の成長を引っ張ってきた米国向けを中心とする輸出の伸びが、人民元上昇により急速な鈍化につながらないか、注意深く見守っていく必要があります。

サンフロント21懇話会は昨年度、県東部地域の発展に向け、広域行政の推進支援、ファルマバレープロジェクトの推進支援、富士・箱根・伊豆を東ねた広域観光の促進、東部地区におけるコンベンション機能の促進など研究、提言活動を展開してまいりました。特に昨年5月、「ロボカップジャパンオープン2008」が沼津市で開催され、地元では「ものづくり」への機運が大いに盛り上がりました。また東部地区におけるコンベンション機能の促進では、県に事業化に向けた提言をし、懇話会の発言力を高めたところです。

国内外とも先行きに不透明感を増す中ですが、今年6月4日には、待望の「富士山静岡空港」が開港します。懇話会は「空港の利活用と差別化戦略」を活動方針の共通総合テーマに掲げました。空港に降り立つ国内外からの観光客やビジネス客を満足させることができる受け入れ態勢を東部地区に備えることが急がれます。その実現に向けて懇話会活動に取り組んでまいります。今後のさらなるご協力をお願い致します。

平成20年度のあゆみ

千葉商科大学長
島田 晴雄

「日本経済の展望と
地域経済の活性化」



PHP総合研究所社長
江口 克彦

「地域主権型道州制」



静岡県観光協会
しずおかツーリズムコーディネーターチーフ
今井 利昭

「富士山静岡空港の取り込みに
向けた各地の動き」



作家・評論家
佐高 信

「平熱の思想家、福沢諭吉—
その在野精神と時代」



富士山静岡空港社長
吉岡 徹郎

「富士山静岡空港の
利用促進に向けて」



共同通信社政治部次長
兼編集委員

柿崎 明二

「政権選択の行方」



◆20年5月

活動記録「飛躍」発行

平成19年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍」(A4判、28頁)を発行した。内容は総会、分科会など活動の足跡をはじめ、ファルマバレープロジェクトの第2次戦略計画の新たな取り組みについて、富士山静岡空港開港に伴う観光活性化、東部地区におけるコンベンション機能の促進、東部地区の合併による広域行政の推進など。平成20年度の活動方針も紹介した。

◆20年5月28日 130人出席

20年度総会(沼津東急ホテル)

14回目となる総会には130人が出席した。20年度予算、活動方針を原案通り承認。記念講演では千葉商科大学長の島田晴雄氏が「日本経済の展望と地域経済の活性化」と題して、政治と政策不況を挙げ、今年から来年にかけて不況というマイナスサイクルが働くことと危機感を訴えた。

◆20年7月18日 120人出席

第14回東部地区分科会(ブケ東海)

懇話会の年間テーマに掲げた「広域行政の推進」に向けた、「道州制って何?—あすの都市づくりを考える—」をテーマに開催。PHP総合研究所江口克彦氏が、「地域主権型道州制」と題して基調講演を行った。江口氏は東京一極集中の弊害を指摘し、基礎自治体である地方が実情に合った行政を行うことが将来の道州制につながることを強調した。パネルディスカッションでは将来の道州制に備え、県中部、西部に負けないポテンシャルを伊豆地区を含めてどう作り上げていくかが問われていると、さらなる東部全体の自立を求めた。

◆20年10月31日 90人出席

第14回伊豆地区分科会 (ホテルサンバレー富士見)

「富士山静岡空港開港カウントダウンシンポジウム第1弾」として開催。当初の3月開港予定から延期された理由と暫定運用の説明がまず、県空港部の松井隆参事からあった。そのあと、静岡県観光協会しずおかツーリズムコーディネーターチーフの今井利昭氏から「富士山静岡空港の取り込みに向けた各地の動き」と題した最新報告が行われた。パネルディスカッションでは空港を生かした伊豆地区の活性化戦略について4人のパネリストが空港と観光地をつなぐ二次交通や着地型旅行商品づくりに向けた連携の在り方や課題について意見交換した。

◆20年12月15日 130人出席
運営委員会 全体会(ホテル沼津キャッスル)

富士山静岡空港の利活用と差別化戦略を「共通総合テーマ」とし、広域行政の推進支援、ファルマバレープロジェクトの推進支援、東部地区におけるコンベンション機能の促進、富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進、Mt. FUJIエコサイクリングへの支援の5項目の21年度活動方針案を提示した。記念講演では作家で評論家の佐高信氏が、「平熱の思想家、福沢諭吉—その在野精神と時代」をテーマに官僚国家の現状と小泉・竹中「改革」の問題点を指摘した。

◆21年2月17日 130人出席
東部地区特別シンポジウム
(アンジェ・ヴィラージュ ブケ東海)

「富士山静岡空港開港カウントダウンシンポジウム第2弾」と題し、県空港部からの最新報告を皮切りに基調講演とパネルディスカッションの2部構成で実施。会場には130人が参加。1部では富士山静岡空港の吉岡徹郎社長が、「富士山静岡空港の利用促進に向けて」との演題で新空港の果たすべき役割を正しく認識し、「ひとつの産業コミュニティ」を目指すべきだとした。2部のパネルディスカッションでは企業経営研究所常務理事の中山勝氏がコーディネーターになり、4人のパネリストが産業、教育、文化の分野から見た新空港のあるべき姿について意見交換をした。

◆21年3月13日 100人出席
第14回富士地区分科会
(ホテルグランド富士)

「富士山静岡空港開港カウントダウンシンポジウム第3弾」と題し、県空港部犬丸淳利用促進室長の最新報告に続き、富士山静岡空港の吉岡社長が基調講演を行った。吉岡氏は新空港を新たな交流発展への玄関口と位置づけ、遠距離地域との交流、特にアジア地域との関係は産業、観光面でも身近な存在になると指摘。空港整備による雇用の拡大にも期待を寄せた。また、富士・富士宮地区の空港利用を促し、山梨県に負けない魅力を発揮して欲しいと強調した。

パネルディスカッションでは静岡総合研究機構の影山武司研究部長がコーディネーターとなり4人のパネリストによる新たな提案や提言があった。世界文化遺産登録を目指している富士山の活用、富士宮やきそばに代表される食・グルメの新たな発信、体験型観光の実施、コンベンション機能を持つ富士山メッセの活用、環富士をイ

メージした大型のスポーツイベントの実施、そして地元、富士市の主幹産業である製紙業が主体となったイベント「ティッシュワールド」の開催誘致など様々な意見が出された。



◆21年3月26日 40人出席
幹事・運営委員と東部選出県議団・
市長町長連絡会議との合同会議
(サンフロント9階ミーティングホール)

市長町長連絡会議会長の栗原裕康沼津市長が議長を務め、2つの議題について話した。1つは「平成21年度の活動方針」について。2つ目は「市長町長連絡会議の役員改選」について。サンフロント21懇話会井口賢明運営委員長から21年度の活動方針についての説明があり、各テーマを束ねた「共通総合テーマ」の紹介と5つの活動方針(テーマ)が説明され、参加者全員からの承認を得た。役員改選に関しては21年度から県東部・伊豆地区の自治体間の結束強化を図るため、全首長による組織改編を行った旨の説明と新しく御殿場市長の若林洋平氏と沼津市長の栗原裕康氏の加入を報告した。参加者全員の承認を得た。

講演会で共同通信社政治部次長兼編集委員の柿崎明二氏は「政権選択の行方」と題し、二大政党の行方どうなるかを軸に民主、自民両党の現況について説明した。また、「小沢一郎が辞める状況となれば、民主は若手から支持されている岡田克也副代表が次期代表となる可能性が高い」とし、また、そうなれば自民党は麻生降ろしの動きが始まると予想した。

特集. I 観光-いよいよ開港富士山静岡空港



6月4日、富士山静岡空港が開港します。大交流時代、そして激化する地域間競争を勝ち抜くための強力なツールとなる空港をいかに活用していくか、地域や企業の手腕が問われています。

国内遠隔地へ、海外へ

北海道、北陸、九州、沖縄、そして海外へ直結する「そらの玄関」富士山静岡空港。大都市を経由せず、より快適に、より早く国内遠隔地やアジア主要都市を結ぶ空のネットワーク拠点です。

現在、国内6路線(1日10往復)、海外2路線(週18往復)が決定。県は、引き続きより多くの路線、便数の確保に向け航空各社と協議を続けています。



自治体と民間が協力して運営する全国初の地方空港に

滑走路などの基本施設の建設を静岡県が行い、建設後は、県が最終的な管理責任を負うことを前提に、可能な範囲で管理業務を民間会社（富士山静岡空港株式会社）に委託することとしています。また、ターミナルビルの建設・運営は、富士山静岡空港株式会社が行う予定です。

●会社の状況

富士山静岡空港株式会社は、ターミナルビルの賃貸、空港基本施設の管理などを主な業務とする会社で、静岡県内の企業10社の出資により、平成18年2月14日に設立されました。

地方空港としては初めての民間出資のみによる空港運営会社で、会社名は、空港の愛称である「富士山静岡空港」と同じ名称です。



観光メニュー造成が活発化

県中西部各地では昨年から、地域の視点で観光素材を掘り起こした着地型旅行商品の造成が活発化しています。県も、誘客の目玉となる富士山に関する総合案内「富士山静岡ナビ」を4月からスタートしました。また、富士山世界文化遺

産登録推進のためのガイドブック「富士山を知る旅へ」を作成、静岡、山梨両県に2万5千部ずつ配布する予定です。

富士山総合案内窓口 ニホイヤチサンナナノク 電話番号：054-221-3776

「三日坊さんの旅」(袋井市観光協会)

1泊2日でお寺の生活を体験。著名な観光スポット、可睡斎(かすいさい)、法多山(はったさん)、油山寺(ゆさんじ)の遠州三山に、江戸時代に寺子屋のあった西楽寺(さいらくじ)、観福寺(かんぶくじ)を加えた5つのお寺の特色を生かしてお坊さん修行をします。

「夷太の地酒をたき火で味わおう」(藤枝市)

藤枝は知る人ぞ知る地酒の宝庫。地元の酒造蔵を訪ね、伝統の酒造りの現場を体感、試飲。夕食は、自分で収穫したシイタケ片手にキャンプ場へ。日暮れにはいよいよ焚き火を開き、利き酒師のレクチャーで地酒と山の手料理を。野趣あふれる山の料理に合わせた地酒の数々を心行くまで堪能できます。

東部で進む地域の魅力づくり

中西部に比べ、空港に対する関心が今ひとつな東部・伊豆地域。とはいえ、間近に迫った大交流時代に向け、体験型観光商品やご当地グルメの開発など多くの人に訪れてもらう仕掛けづくりが一部で始まっています。また、交流人口拡大に

欠かせない大規模コンベンション施設の整備計画も進んでいます。国際会議場、大型展示施設、ホテルなどからなる複合施設で、平成22年の着工を目指しています。

体験型観光商品の開発

「あなたが選ぶ150通りの伊豆ほんもの自然体験」はJOYZ(伊豆観光活性化協議会)が提供する西伊豆に残る本物の自然を体験するツアー。漁師体験やブナの原生林トレッキングなど、数多くの体験メニューや宿泊、食事がチョイスできるプランです。



食の魅力で誘客

B級グルメの総本山「富士宮焼きそば」をはじめ、三島産の馬鈴薯を使った「三島コロッケ」、モロヘイヤ入りの「すその水ギョーザ」など、地域の特産品を上手に生かしたご当地グルメが各地で誕生しています。



インバウンドの受け皿整備

伊豆の国市観光協会では、外国人観光客の受け皿整備を積極的に推進。経済産業省の補助金を受け、独自の外国人モニターツアーなどを行っています。



特集 . I 観光・求められる東部への二次アクセス



富士山静岡空港からの誘客に欠かせない東部・伊豆への二次アクセス。懇話会はシンポジウムなどを通じてアクセス整備の機運を盛り上げています。

■ 空港と地域をダイレクトに結ぶ交通網

中西部各地では、空港からの二次交通がほぼ出揃いました。しずてつジャストラインと遠州鉄道は近隣主要駅への路線バス運行を決め、静岡駅へは東名吉田、静岡インターなどを経て所要約50分。島田駅直通は約35分、掛川駅へは菊川駅経由で、約45分。浜松駅との間は東名掛川インターや掛川駅、浜松西インターなどの経由で、約1時間50分で結びます。いずれも航空機発着に合わせ、1日5往復程度運行します。

また、県タクシー協会も静岡市内の数社が静岡空港と主要駅との定額運賃導入を準備しています。

東部・伊豆地区は海上交通を利用した西伊豆、中伊豆ルート、朝霧高原を通り河口湖へ抜ける富士、富士宮ルートはできたものの、沼津、三島方面への直通ルートはめどが立っていません。空港の活発な利活用を促すためにも、官民が協力し交通機関へのアクセス整備を働きかけることが必要です。

■ 中西部で運行が決まった路線

静岡方面

空港～吉田IC入口～東名大井川～東名焼津西～静岡IC入口～静岡駅～(新静岡)
静岡駅まで約50分
しずてつジャストライン(株)

島田方面

空港～島田駅(南口)
島田駅まで約35分
しずてつジャストライン(株)

掛川方面

空港～菊川駅前～掛川駅(南口)
菊川駅まで約25分
掛川駅まで約45分
しずてつジャストライン(株)

浜松・掛川方面

空港～(東名)～掛川インター・掛川駅(南口)～磐田インター～浜松西IC(乗換)～浜松駅
掛川駅まで約35分
浜松西インターまで約80分
浜松駅まで約110分
遠州鉄道(株)



■ 東部へのアクセス



● 伊豆ドリームバス

東海バスと伊豆急行、駿河湾フェリーがセットになった「伊豆ドリームバス」が商品化されました。清水港～土肥港間のフェリー(片道)と、バス、電車が3日間乗り降り自由なフリーバスで西伊豆・東伊豆が周遊できる「黄金路ルート」と中伊豆・東伊豆が周遊できる「山葵路ルート」の2ルートがあります。

● 富士急直通バス

富士急行は空港～富士五湖間のバス路線を検討しています。詳細な運行ルートやダイヤは今後決定しますが、河口湖と朝霧高原、富士宮、富士市の中心部などと空港を結ぶルートを想定し、所要時間は片道3～3時間半を見込んでいます。

■ 東部に二次交通を呼び込むために

東部に二次交通アクセス整備の機運を高めるため、懇話会は富士山静岡空港開港カウントダウンシンポジウムを3回開催しました。

10月31日 伊豆地区分科会

テーマ「空港を伊豆観光の新たな発展につなげるために」

最新報告では県空港部利用推進室の松井隆参事が開港延期について「県民の皆様にご心配をかけ、大変申し訳ない」と陳謝し、経緯や今後の対策について説明しました。県観光協会の今井利昭かずおかツーリズムコーディネーターチーフは、開港に向け地域の視点で県内の観光素材を掘り起こした着地型旅行商品を紹介し、「具体的なコース設定があれば、各地のツアー会社で興味を持ってもらえる」と報告。パネル討論は今井氏と秋田・横手市観光協会専務の若杉清一氏、旅館の女将(おかみ)で伊豆の国市観光協会長の安田昌代氏、全日空静岡支店長の鹿野内国裕氏の4氏が空港と観光地をつなぐ二次アクセスや、着地型旅行商品づくりに向けた連携の在り方、課題について意見交換しました。



■ 県観光協会
今井利昭チーフ



■ 県空港部
松井隆参事

2月17日 特別シンポジウム

テーマ「富士山静岡空港の利用促進に向けて」

県空港部経営管理室長の白井満氏が開港時の国内線と国際線の就航先など、静岡空港の最新情報を報告しました。「富士山静岡空港の利用促進に向けて」と題して基調講演した空港運営会社の富士山静岡空港の吉岡徹郎社長は、ターゲットとなるインバウンドのニーズを的確につかみ、受け入れ側が知恵を絞り、努力することが求められると強調。

パネル討論では、国内外で抜群の認知度を誇る“富士山”の魅力を最大限に活用して伊豆・東部地域を売り込む提案があり、ほかにも貨物便就航による物流改善、沼津・三島・伊豆と空港を結ぶバス運行の実現、開港による民間交流の拡大などの意見が上がり、伊豆・東部地域の多様性を生かすために、地域が一体性を持って取り組む必要性を確認しました。



■ 富士山静岡空港 吉岡徹郎社長

3月13日 富士地区分科会

テーマ「空港を生かした富士地区の地域活性化戦略とは」

6月に開港する富士山静岡空港の利活用と地域活性化をテーマにしたシンポジウムでは、富士地域のシンボルであり、静岡空港の愛称となった富士山を生かした産業観光の振興や食の情報発信など富士・富士宮地区の特性を生かすユニークな提言が相次ぎました。

国内、国際線の就航先や県の空港利活用促進支援事業など開港に関する最新情報を犬丸淳県空港部利用推進室長が説

明した後、「富士山静岡空港の利用促進に向けて」と題し、吉岡徹郎富士山静岡空港社長が基調講演しました。パネル討論では「環富士山地域の広域連携を強める」「富士山の眺めを生かし、趣味の世界を盛り込んだイベントの開催を」「地場の産業集積を生かしたメッセの開催を」など富士山を間近に仰ぐ富士・富士宮地区を空港を活用して活性化するための方策などを4人のパネリストが観光や産業分野の視点から提言しました。



■ 富士宮市観光協会
宮崎善旦会長



■ 丸石製作所
石川眞社長



■ 丸富製紙
佐野武男社長



■ JTB中部
林田充沼津支店長



■ 静岡総合研究機構
影山武司研究部長



高度な研究成果を新産業の創出や地域活性化に結びつけるファルマバレープロジェクト。東部のものづくり技術を生かした新製品が次々と誕生しています。

抗がん剤開発に貢献

プロジェクトのけん引役、県立静岡がんセンター、同研究所では、企業や大学との共同研究を盛んに行っています。

● 治験委託費が年間5億円に

同センターは20年度に、医薬品などの受託業務を約100件、受託費にして約5億円の収入がありました。これにより、新薬の開発の一翼を担うとともに同センターの患者に最新の医療を提供することが可能になっています。

● 抗がん剤の共同開発

また、アストラゼネカ社と抗がん剤の基礎研究、臨床試験にかかわる非独占的包括契約を提携。欧米主体の抗がん剤開発でなく、日本人、アジア人に適した抗がん剤や治療法の開発を目指します。



ベッドサイドクラスターの形成進む

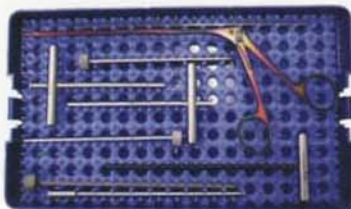
プロジェクトの中核機関であるファルマバレーセンターが中心となり、医療現場や患者、家族が「あったらいいな」と思うもの

を製品化する新たな道筋ができました。プロジェクトが目的とするベッドサイドクラスターの形成が目に見える形で進んでいます。

● 医療現場のニーズを製品に

骨腫瘍検査キット

長さ15cmの針を直接患者の骨に刺し、がんが疑われる部分の組織を取り出すキットを開発。従来製品に比べ、サイズを小さく、かつ診断に十分な量が取れるよう改良し、患者への負担を軽減しました。また、器具にはDLCをコーティングし、耐久性や抗汚性を高めました。



開発関係者
静岡がんセンター
ファルマバレーセンター
ホリックス
富士工業技術支援センター
ビヨonz

直腸脱気チューブ

前立腺がんの陽子線治療では、陽子線を患部に正確に照射でき、直腸に与えるダメージを軽減することが必要。そのため、前立腺の後ろに位置する直腸にたまったガスを抜き取るチューブを開発しました。



開発関係者 静岡がんセンター ファルマバレーセンター アイ

TOPICS

●看護師のアイデアから

静岡がんセンターの看護師がものづくり企業の協力で患者の治療や看護に必要な器具などの開発に取り組んでいます。プロジェクトの推進によって、企業が医療現場の声に耳を傾けやすい環境整備が進んでいます。

カテーテル固定器の開発

血栓症治療用カテーテルなどを頭部に固定する用具を開発。作業時間の大幅短縮と患者のストレス緩和に役立っています。



術後病衣の開発

術後、体内から浸出液などを排出するチューブ類を屈曲させないパンツを開発。チューブ類の抜け防止や患者の動きやすさが向上しました。

都市エリアに裾野市が仲間入り

地域の研究機関、大学などの知恵を活用し、地域産業の育成を目指す文部科学省の委託事業「都市エリア産学官連携促進事業」。富士山ろくエリア(沼津・三島・富士宮・富士市、長泉町)に、昨年裾野市が加わりました。

QQセイバーが新連携に採択

医療関連部品の開発・製造を行う東海部品工業、精密樹脂加工技術の松浦製作所、医療機器開発支援のフジファルマは、関東経済産業局と厚生労働省から「新連携計画」の共同認定を受けました。この事業は異なる分野で事業を行う複数の中小企業が持つさまざまな強みを持ち寄り、連携することで単独では難しい高付加価値の製品やサービスを創出するもの。3社は救急時携帯用人工呼吸器の開発と事業化を目指します。



■QQセイバー

ものづくりを支える地域づくり「沼津市ロボカップ開催」

同プロジェクトの製品化を支える東部のものづくり技術。一昨年の技能五輪国際大会に続き、大規模なものづくりイベント「ロボカップジャパンオープン2008」を開催しました。自分でプログラミングしたロボットを操る子どもたちの輝く顔が印象的な大会となりました。

癒しの地域づくりが進む

東部の恵まれた地域資源を生かし、住む人も訪れる人も元気になるまちづくりが進んでいます。

かかりつけ湯第4次選定が終了

健康増進と癒しを提供する伊豆の温泉宿のネットワーク、かかりつけ湯。伊豆八十八カ所をめぐるモニターツアーも好評です。今年3月、3つの宿が新たに認定され、50施設に。今年は主に首都圏を中心にPRに力を入れ、誘客を図ります。



認知動作型トレーニング広まる

東京大学の小林寛道名誉教授の理論を取り入れた認知動作型トレーニング。すでに、裾野市や伊東市で導入され、高齢者の体力増強に効果が出ています。昨年、磐田市、袋井市でも導入。伊東市では市民向けに健康体操番組を作り、ケーブルテレビで放送しました。



新しい調査研究が始まる

裾野市、伊豆の国市、伊豆市は米・ハーバード大学、岡山大学と共同で、地域の結びつきが住む人の健康に与える影響を調査・研究する新たな事業を展開します。



■米ハーバード大学
カワチ・イチロー教授

合併-遅れる地方分権の受け皿整備

県内市町合併の状況

平成21年3月19日現在

昨年11月、富士市が旧富士川町を編入するなど3つの新市がスタートしました。合併新法の期限である平成22年3月までには32市町となる予定です。



県内の合併状況

合併新法の期限が平成22年3月に迫る中、20年度に県内で合併や合併協議会が設置されたのは以下の市町です。

合併	合併協議会設置
平成20年4月1日 榛原郡川根町が島田市へ編入	平成20年6月5日 南伊豆地区1市3町合併協議会設置
11月1日 庵原郡由比町が静岡市へ編入	7月2日 湖西市・新居町合併協議会設置
11月1日 庵原郡富士川町が富士市へ編入	平成21年3月19日 富士宮市・芝川町合併協議会設置
11月1日 志太郡大井川町が焼津市へ編入	
平成21年1月1日 志太郡岡部町が藤枝市へ編入	

また、昨年6月には静岡県市町村合併推進構想が変更されました。

南伊豆地区の合併状況 (下田市、河津・南伊豆・松崎町)

県の合併推進構想の対象となっているのは1市5町(下田市、河津・南伊豆・松崎・西伊豆・東伊豆町)の組合せでしたが、西伊豆・東伊豆町が合併構想から離脱するなか、残る1市3町の枠組みでの合併に向けた準備が進んでいます。

昨年6月5日には、南伊豆1市3町で合併協議会が設置され、同月、県の合併推進構想にも正式に位置づけられました。しかし、松崎町議会が合併反対を再び表明し、深沢進松崎町長は合併の民意を問う出直し町長選を行いました。また、南伊豆町議会も合併関連経費を事実上否決するなど、混迷が続いています。

南伊豆地区の各市町の財政運営は厳しい見通しとなっており、早急に行財政基盤を強化し住民サービスの維持を図る必要が求められています。



■ 富士地区の合併状況

昨年11月1日、庵原郡富士川町が富士市へ編入され、富士川をまたいだ合併が実現しました。

過去2度にわたって合併議論が頓挫した富士宮市と芝川町の合併は、昨年10月、野村寛町長が小室直義市長に合併協議を申し入れ、今年、両市町議会で法定合併協

議会設置議案が可決しました。第一回の合併協は4月6日に開かれました。合併方式は富士宮市への「編入」、新市名称を「富士宮市」とする方針を決めています。

■ 北駿地区の合併状況

裾野、御殿場市、小山町の2市1町は、市町合併に関する住民アンケートを昨年10月に行いました。アンケートは3市町が共通の設問で行い、合併推進派が慎重派を上回った

のは御殿場市のみ。また、推進派の間でも10万～30万人規模の都市への移行を望む声が多く、地域全体で大規模合併への志向が極めて低いことが示されました。

市町名(対象人数)	合併を進めるべき	合併を進めるべきでない (現状維持、広域連携のみ)
裾野市 (5,000人)	34.9%	49.7%
御殿場市 (2,000人)	57.0%	27.0%
小山町 (1,500人)	38.8%	48.5%

■合併に関する住民アンケート

■ 沼津、三島地区の合併状況

昨年2月、政令市実現を目指した5市4町による東部広域都市づくり研究会が解散しました。その後も小規模な合併パターンが模索されていますが、東部の核となる沼津、三島両市が連携する気配はまったく見られません。

すでに、市民生活、経済活動の一体化は進み、JR東海道線の沼津 - 三島間は10分間隔の運行となるなど利便性も高まりました。中西部に負けない東部の賑わいの核となる沼津駅北の東部コンベンションセンターも整備に向けて動き

出しています。

昨年11月沼津市長に就任した栗原裕康市長が三島市との連携を機軸にした広域合併を目指す一方で、小池政臣三島市長は「市民の意向が第一」とした上で、市民の多くが将来の都市規模について現状を望んでいる状況を挙げています。地方分権の受け皿強化のためにも、両市の前向きな議論が求められています。

■ 道州制導入にらみシンポジウムを開催

懇話会は予想される道州制導入を踏まえ、東部地区分科会で「道州制って何?—あすの都市づくりを考える」をテーマに、江口克彦PHP総合研究所社長の基調講演やパネ

ル討論を行い、魅力ある地域づくりに不可欠な東部合併や地域の自立的・持続的発展を目指す「多極分担型地域構造の形成」の必要性などを話し合いました。

基調講演で、内閣官房道州制ビジョン懇談会の座長を務める江口社長は「地域主権型道州制」と題し講演。東京だけが繁栄していく中央集権の弊害を指摘した上で、霞が関官僚の基準とは違った地域密着型の実情に合った地域主権型道州制について説明しました。



■PHP総合研究所
江口克彦社長





東部に足りない高次都市機能のひとつ「大規模コンベンションセンター」の整備計画が進んでいます。賑わいの核となるこのセンターに地域の期待も高まります。

東部コンベンションセンター整備計画決まる

県と沼津市が進める沼津駅北の東部地域拠点施設「東部コンベンションセンター」の整備計画が決まり、このほど設計・施工業者が選定されました。

県施設の会議室棟や沼津市の展示イベント棟のほかホテル、マンション、駐車場の各棟で構成する複合施設となります。

○施設の概要

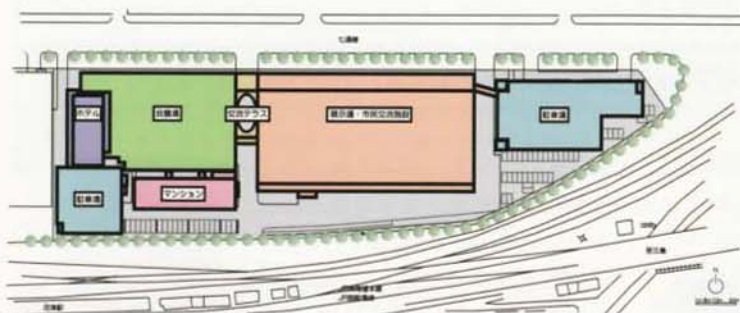
事業提案によると会議室棟は収容1300人のメイン会議室、400人の大会議室、中小12の会議室を持ち、国際会議や学会、総会などのほかパーティーなどバンケットにも対応で

きとなっています。

市の展示イベント施設は展示面積3800平方メートル。イベントや展示会、集会、スポーツイベント開催が可能で、市民からの要望が高かったギャラリーも配置予定。

宴会場やレストランが併設された民間のホテル棟は13階建てで104室。マンション棟は14階建て78戸。総事業費は168億円で、このうち県事業は64億円、市事業50億円を負担します。

2010年度に着工、展示イベント棟は12年度、会議室棟などは14年度の供用を目指します。



■配置図

■事業者	
事業代表企業	大和ハウス工業
グループ構成企業	INA新建築研究所 森ビル都市企画 UG開発マネジメント 長谷川逸子・建築計画工房
ホテル協力企業	タイワロイヤル 沼津キャッスル

○「祭会都市」がキーワード

東部コンベンションセンターのコンセプトは「祭会都市」。集客と交流の活発な場となるような、新たな活動やコラボレーションを生み出す場として、コンベンションに欠かせないバンケット機能、ケータリング機能を有するホテル、また、中心市街地に定住人口を増やすためのマンションも提案されました。

県施設、沼津市施設、民間施設をテラスや連絡通路で結ぶだけでなく、沼津駅と周辺施設との連絡も機能的で利用者にわかりやすく配置しました。前面道路との一体感と施設全体の統一感を演出するガラスファサードや、開放的なエントランス広場はシンボル性、利便性も高く、屋上庭園や壁面緑化など景観や環境面への配慮・工夫がなされています。

東部コンベンションセンターに期待される波及効果

東部コンベンションセンターが整備され、国際規模のコンベンションが開催されるようになると次のような波及効果が考えられます。

○地域イメージの向上

コンベンションがメディアに取り上げられることで、地域の知名度が上がります。また、国際的に著名な会議や有識者が地域を訪れることで、口コミによる効果が期待できます。



○地域産業・文化の活性化

国際的、全国的なコンベンションが開催されることで、新たな技術、ノウハウ、人脈を得る機会が増えます。地域の企業が持つ技術やアフターコンベンションを通じた観光情報の発信で、さらなるビジネスチャンスや観光客の誘致が期待できます。



○情報発信、交流機能や市民生活の向上

例えば医療系コンベンションでは、健康に関する市民向けセミナーや講習会、展示会などが開かれ、市民生活のレベルの向上につながります。また、ボランティア組織など交流機能が向上します。

○観光振興

アフターコンベンション需要の高まる中、コンベンション参加者により多くの観光体験をしてもらう好機となります。

○まちづくりの促進

コンベンションの誘致は開催都市そのものを売り出すことであり、参加者にとって使いやすい公共交通機関、アクセス道路、誘導サインなどを整備することでユニバーサルなまちづくりが促進されます。市民のおもてなしの向上にも役立ちます。

○経済効果

コンベンション開催に伴う参加者の宿泊、飲食、買い物、交通費などの消費のほか、印刷、運送、会場設営、広告宣伝、通信など直接的経済効果に加え、これらに伴う生産、税収、雇用創出などの間接的な経済効果も見込めます。

コンベンションセンター整備を機に合併促進

沼津駅北に県と沼津市で広域的な交流の拠点となるコンベンションセンターの整備を決定した背景には、一向に進まない合併への機運を高める狙いがあります。県は新たな地域の形として一つの圏域の中に複数の中心が存在し、お互いが機能を分担、連携することで地域全体の発展を目指す「多極分担型の地域構造」を提唱しており、沼

津・三島、裾野・御殿場、富士・富士宮と一定規模の市が分散している東部では、行政は別々でも実態として一体化していった方が政令市への近道になるのではないかと考えを示しています。コンベンションセンター整備を機に地域が連携し、合併への道筋が描かれることが期待されています。

中核を担う東部地域コンベンションビューロー

懇話会は昨年、東部コンベンションセンター整備についての提言を行いました。その中で、コンベンションセンターの複合的な魅力を発信、演出する中核的な役割を東部地域コンベンションビューローが担うべきとしています。19年に設立された同ビューローは、沼津・三島・御殿場・裾野・伊豆・伊豆の国市、函南・清水・長泉・小山町6市4町で構成され、東部地域ならではの特徴を生かし、施設情報からアフターコンベンションまで、多様なニーズに対応できることを目指しています。



■東部地域コンベンションビューローHP

サンフロントから情報発信

ラジオEAST

www.digisbs.com/east/

SBSラジオ 毎週土曜日
11:00 ~ 12:55

サンフロント21懇話会が母体となり、東部・伊豆の地域情報を2時間にわたりお送りする「Radio*East」。清水町の大型ショッピングセンター、サントムーン柿田川内に開設されたサテライトスタジオ「LISPA」は東部・伊豆の情報発信、文化創造拠点として賑わいを見せています。

番組恒例の公開放送は全部で7回。各地のイベントや魅力スポット、地元でしか食べられないご当地グルメ情報などをお送りしています。



■ ラジオ EAST ホームページ

ホームページでは、番組で取り上げた話題を写真とテキストで紹介しています。「EASTたべちゃうぞ!」をはじめ「温泉へ行こう」「花ごよみ」各コーナーはバックナンバーも充実。東部、伊豆にお出かけの際はぜひご利用下さい。

URL <http://www.digisbs.com/radio/program/east>



新聞特集記事「風は東から」

www.sunfront21.org/

静岡新聞東部版・朝刊

毎月 第4日曜日掲載

東部地域の活性化に向けたさまざまな取り組みや、サンフロント21懇話会の活動の一端を毎月1回、新聞紙上で紹介する「風は東から」。

連載11年目を迎え、今年は道州制をにらみ東部が目指すべき「多極分担型地域構造」について、石川嘉延県知事、黒

川和美法政大学教授、後藤全弘沼津商工会議所会頭による鼎談や、沼津市で開催されたロボカップ、徐々に成果が出始めたファルマバレープロジェクトのものづくりなどを取り上げました。



■ サンフロント21 懇話会ホームページ

懇話会活動がひと目で分かるホームページ。懇話会の設立趣旨・沿革をはじめ、新聞「風は東から」のバックナンバーや、1年間の活動をまとめた冊子「飛躍」などが閲覧できます。

URL <http://www.sunfront21.org/>

平成21年度活動方針

共通総合テーマ

富士山静岡空港の利活用と差別化戦略

平成20年度は「富士山静岡空港開港による地域振興」を共通総合テーマに掲げ、地区ごとの分科会を通して議論を深めた。いよいよ21年度は空港開港の年。県東部地域に存在する豊富な観光資源をバックにその魅力をいかに発揮していくかが問われる。これまでにインバウンドの対応、二次アクセスの整備、着地型商品の開発など多くの提言や提案を得た。次は空港そのものの利活用の推進が大きなテーマとなる。県民だれからも好かれる空港。使い勝手のよい空港とは。地方空港の存在意義がまさに問われる時が間もなく到来す

る。他の空港との差別化をどう図っていくのか。冠に富士山をつけたことが将来どのような国際化につながっていくのか。サンフロント21懇話会では平成21年度を迎えるにあたり年間の活動方針として今回も共通総合テーマ掲げることによって県東部地区の方向性を確かなものにしていく。そのテーマを「富士山静岡空港の利活用と差別化戦略」とした。各地区別テーマはこの共通テーマに沿った落とし込みをし、具体的かつ提言となるものにしていく。



地区別テーマ

広域行政の推進支援

道州制が現実味を帯びているなか、いまこそ地域同士が結束し、体力を蓄えていく必要がある。地域同士が横断的に抱えている問題点を補完しあい生活者に安心、安全を与えることこそが広域行政のあるべき姿ではないか。なかでも東部地域の主要都市である沼津市と三島市が軸になり、近隣市町とも十分に協議し、相互理解を得ながら、しかもスピード感をもって県中部、西部に続く政令市を早期実現させること

が今、求められている。懇話会としてできる限りの支援を行う。また、伊豆地区の抱える問題点をさらに研究する。過疎化、財政難などの難題を抱えながら、伊豆のもつ歴史有る財産は守り抜かなければならない。「伊豆はひとつ」と言われて久しいが伊豆半島を大きな塊としてブランド化していくことが伊豆観光の生き残る道ではないだろうか。大いに議論を深め、伊豆復興の道筋を創っていきたい。

ファルマバレープロジェクトの推進支援

静岡県が進めるファルマバレー（富士山麓先端健康産業集積）プロジェクトは、平成14年に県立静岡がんセンターが開設され、翌年にはファルマバレーセンター（PVC）が設置された。そして、平成17年にはがんセンター研究所が開設、県内外の大学、医療機関、民間企業、研究所等による共同研究を推進している。県東部地域を中心に、恵まれた交通インフラや自然環境、健康関連産業の集積を背景に、世界レベ

ルの高度医療・技術開発を目指して先端的な研究開発を促進し、医療からウェルネス産業にいたる先端健康産業の振興と集積を図るプロジェクトであり、平成19年に策定したファルマバレープロジェクト第2次戦略計画（平成19年～22年度）では健康基盤づくり・健康ものづくり・健康まちづくり・ひとづくり・世界に向けての5つの戦略を掲げた。

懇話会として、引き続きこのプロジェクトを支援していく。

東部地区におけるコンベンション機能の促進

県と沼津市が所有するJR沼津駅北口の土地の施設整備が具体化し始めた。県東部の広域的な交流機能を高めるため、中核的施設として大型のコンベンション施設と、新たな展示イベント施設を導入し、補完施設として市民交流施設や行政サービス施設、駐車場などを整備し、民間活力を導入したホテルやマンション、オフィスなどを誘致する方向だ。サンフロント21懇話会としてもこの動きに敏感に反応し、昨年3月には

県に対し推進に向けた提言を行った。箱物行政ではなく、「装置の充実と機能の多様化」が最も重要であり、周辺市町に及ぼす効果は計り知れない。今年度はさらにビューローの機能強化と、具体的な戦略を練って実現に向けた支援と提言を行う。この多面的機能を国内外にどう売り込んでいくべきかを真剣に考えていく。

富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進

「伊豆はひとつ」の精神を持った上でさらに広域な視点で観光を考える時代が来た。それが富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光戦略である。それに拍車を掛ける大きな動きこそが「富士山静岡空港」の開港だ。海外からの外国人旅行者（インバウンド）と国内の北海道、九州、沖縄など遠隔地からの旅行者は静岡空港に降り立つ。いかに東に足を向けさせ富士、箱根、伊豆の観光にまで持っていけるかが最大の課題では

なからうか。2次アクセスの整備や着地型商品の開発などが急務となっている。国内外の有力観光地、テーマパークなどの地域間、施設間の競争は激化する一方で、これから確固とした観光戦略を打ち出していかなければならない。さらに議論を詰めていく必要がある。懇話会は、前年度に引き続き、新しい伊豆のにぎわいを取り戻すための方策を考えていきたい。

Mt. FUJIエコサイクリングへの支援

日本の象徴であり、世界文化遺産の正式登録をめざす富士山において自然環境と人にやさしい自転車を使った「Mt. FUJIエコサイクリング」（後援：静岡新聞社・静岡放送）を支援し、富士の恵みを今一度噛みしめ、自然環境と人との関わり方を考えるきっかけづくりとしたい。また、自転車を通じて富士山麓への新たな観光誘致の方策として地域振興に寄与できるだろう。1周約117キロものロングライドサイクリングは静

岡県と山梨県両県をまたぐまさに壮大なスケール感があり、サイクリング愛好家たちの達成感も大いに期待できる。サンフロント21懇話会として今後、日本自転車振興会に対する毎年の予算化と日本サイクリング協会などへの提言をし、この事業をバックアップしていきたい。

会員名簿

氏名	会社名	役職
相原 郁子	(有)新井旅館	代表取締役
青木喜代司	青木興業(株)	代表取締役
青山 茂	(株)シード	取締役副社長
赤塚 敏治	(株)西武百貨店沼津店	店長
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング(株)	代表取締役社長
秋山 勇雄	(株)SBSプロモーション	代表取締役社長
秋山 佳彦	(株)秋山機器	代表取締役社長
芦川 弘之	静岡県田子の浦港管理事務所	所長
天野 好人	(株)富士急百貨店	代表取締役社長
綾部 恵市	(株)綾市商店	代表取締役社長
荒川 直也	株NTTドコモ東海 東海支社 静岡支店	静岡支店長
有賀 俊介	静岡県富士財務事務所	所長
安保 利和	住友生命保険相互会社 沼津支社	支社長
飯田 悦郎	飯田工業薬品(株)	代表取締役
伊海 剛志	(株)イカイ	代表取締役社長
井口 修一	(株)フジスポーツ	代表取締役社長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長
池田 誠	池田病院	院長
池田 泰秀	静岡新聞社・静岡放送	取締役事業局長
石井 大介	(株)富陽軒	代表取締役
石井 直樹	下田市	市長
石井 文弥	伊東観光協会	会長
石井 誠	(株)石井組	専務取締役
石井 良雄	東海自動車(株)	取締役社長
石川 眞	(株)丸石製作所	代表取締役
石川 三義	社会福祉法人 春風会	理事長
石川雄一郎	石川建材工業(株)	代表取締役社長
石川 征雄	(株)三石電化センター	代表取締役
石田 岳彦	(株)CFSコーポレーション	代表取締役会長兼社長
石山 隆治	静岡放送	常務取締役
伊丹 秀之	(有)松韻	取締役社長
伊藤 隆	静岡新聞社・静岡放送	東部総局部長
稲田 精治	三島信用金庫	理事長
稲葉早智子	アロマポット	代表取締役
井上 謙吾	(財)しずおか産業創造機構 ファルマバレーセンター	所長
井原 伸二	スルガ銀行(株)	営業本部 シニアレジスタントアドバイザー
岩田 均	静岡放送	ラジオ局長
植草慎一郎	(株)康報社 植草新聞店	代表取締役社長

氏名	会社名	役職
上野 英房	(株)伊豆新聞本社	代表取締役社長
植松 眞	(株)トーヨーアサノ	代表取締役
臼井 良太	白幸産業(株)	代表取締役
内田 豪	(株)ダイナナ	代表取締役社長
内田 隆久	伊豆一不動産(株)	代表取締役
内田 文喬	内田法律事務所	弁護士
内田 正章	富士通(株) 沼津工場	工場長
内山 一美	マックスバリュ東海(株)	代表取締役会長
宇野 統彦	(株)桃中軒	社長
海老江幸栄	(株)虎屋	工場長
遠藤 里美	日本ガス興業(株)	代表取締役会長
遠藤 忠男	(有)遠藤新聞舗	代表取締役
遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭
遠藤日出夫	長泉町	町長
大石 人士	(財)静岡経済研究所	研究部部长
大石 剛	静岡新聞社	編集局長
大石 滋	静岡新聞社	代表取締役専務
大塩 孝雄	黄瀬川自動車学校	取締役会長
太田 長八	東伊豆町	町長
太田 貴久	(株)ブレーン	代表取締役
大嶽 正泰	三明寺	住職
大竹 輝徳	静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター	所長
大坪 檀	静岡産業大学	学長
大野 数芳	(株)大野商店	代表取締役
大橋 俊二	裾野市	市長
大村 恵紀	大村歯科医院	院長
大山 邦雄	沼津市立病院	病院長
小笠原一夫	宇徳通運(株)	代表取締役社長
尾形 充生	(株)静岡中央銀行	取締役相談役
岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長
小川 忠晴	東京電力(株) 沼津支店	支店長
小木曾 誠	(株)富士シヤフト	代表取締役社長
刑部 治	(有)啓伸社 刑部新聞店	代表取締役
小野 親一	独立行政法人都市再生機構 静岡東部特定再開発事務所	所長
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役
小野寺恭敬	静岡県総合健康センター	所長
織裳 基夫	静岡県下田財務事務所	所長
賀来 裕之	積水ハウス(株) 沼津支店	支店長

氏名	会社名	役職
影山 武司	(財)静岡総合研究機構	研究部長
片山 劫	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長
勝又 高雄	日本電気(株) 沼津支店	支店長
勝又 敏雄	(株)カジマヤ	代表取締役社長
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長
勝間田久嗣	二葉建設(株)	代表取締役社長
勝又 英男	(株)勝又新聞店	代表取締役
勝又 寛治	(株)沼広	取締役会長
勝間田芳壽	(学)東駿学園 御殿場西高等学校	理事長
加藤 修一	(株)加藤工務店	代表取締役
加藤 孝彦	(株)コーゲツ	代表取締役
加藤 昌利	(株)ホテル銀水荘	代表取締役社長
加藤瑠美子	学校法人 加藤学園	副理事長
角田 広道	静岡県熱海財務事務所	所長
亀井 竹雄	(株)シック	代表取締役
河原崎信幸	シンコーラミ工業(株)	代表取締役
川原崎康雄	(株)マキヤ	代表取締役
桔梗 芳実	日本興亜損害保険(株) 静岡支店沼津支社	支社長
菊地 豊	伊豆市	市長
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長
北村 敏廣	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
木戸 英壽	沼津商工会議所	専務理事
木村美都子	木村美都子税理士事務所	税理士
久保田正海	クボタコンサルタント事務所	代表
栗崎 修	野村証券(株) 沼津支店	支店長
栗田 恒夫	静岡県賀茂健康福祉センター	所長
栗原 裕康	沼津市	市長
黒崎 昇	三栄レギュレーター(株)	社長
小池 政臣	三島市	市長
小滝 勝昭	富士信用金庫	理事長
後藤 全弘	(株)ゴトー	会長
後藤 行宏	(株)ゴトー	代表取締役社長
後藤 義男	沼津魚仲買商協同組合	理事長
小中 章義	近物レックス(株)	代表取締役社長
小西 隆司	(株)関電工静岡支店	支店長
小林 省吾	(株)小林製作所	代表取締役会長
小林 俊夫	(株)東報	代表取締役
小林 政則	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役社長
小室 直義	富士宮市	市長

氏名	会社名	役職
近藤 安敏	近藤鋼材(株)	代表取締役会長
近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長
齊藤 栄	熱海市	市長
齊藤 大	伊東ガス(株)	代表取締役社長
齋藤 哲一	三幸興業(株)	代表取締役社長
齋藤 稔	(株)齊藤組	代表取締役社長
佐伯 隆彰	(有)佐伯新聞店	代表取締役
坂本 光司	法政大学大学院	教授
坂本 渡	(株)ビック東海	CATV 事業部長
桜井 末廣	(株)ブケ東海	代表取締役社長
櫻井 泰次	河津町	町長
佐々木 純	(株)損保ジャパン静岡支店 沼津支社	支社長
佐々木道武	大成サービス(株) 浜松営業所	浜松営業所長
佐藤 貢一	米久ペンディング	専務取締役
佐藤三武朗	日本大学国際関係学部	学部長
佐藤 孝敏	静岡県賀茂農林事務所	所長
佐藤 隆泰	(株)静岡銀行 東部カンパニー	常務執行役員
佐藤 孝行	沼津魚市場(株)	代表取締役社長
佐藤 秀樹	(株)サトウ商会	代表取締役
佐藤 秀人	東京海上日動火災保険(株) 静岡自動車営業部沼津営業課	課長
佐藤 宗徳	(株)佐藤建設	取締役 経理部長
佐野 正幸	(有)佐野新聞店	代表取締役
澤入 義幸	スルガ銀行(株)	執行役員
澤野 幸男	スルガカード(株)	代表取締役専務
篠崎 隆	アメリカンファミリー生命保険会社 東海営業本部沼津支社	支社長
篠原 光秋	(株)SBS情報システム	代表取締役社長
島田 雷太	(有)アイシーアイ	代表取締役
杉田 至弘	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
杉山 定久	南富士産業(株)	代表取締役社長
杉山正一郎	御殿場農業協同組合	代表理事組合長
杉山 次郎	静岡県中小企業団体中央会	東部事務所長
須沢 隆弘	(株)東広	代表取締役
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長
鈴木 和宏	御殿場高原ビル(株)	代表取締役
鈴木 一紘	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
鈴木史鶴哉	南伊豆町	町長
鈴木 経康	沼津情報専門学校	校長
鈴木 尚	富士市	市長
鈴木 道也	南駿農業協同組合	代表理事組合長

会員名簿

氏名	会社名	役職
鈴木 幸彦	清水物産(株)	代表取締役社長
須田 徳男	三島商工会議所	会頭
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長
諏訪部敏之	丸善工業(株)	会長
清 哲也	(株)大石組	代表取締役社長
関本 文彦	東海金属工業(株)	代表取締役社長
芹澤 伸行	函南町	町長
多賀 洋	総合警備保障(株) 沼津支社	支社長
高木 信	(株)テクノスジャパン	代表取締役
高田 菊平	ニューデルタ工業(株)	代表取締役社長
高橋 宏	小山町	町長
田代 章	静岡県東部健康福祉センター	所長
田代 寿夫	(株)田代新聞センター	代表取締役
谷 和実	(財)静岡総合研究機構	副理事長
谷川 治	静岡新聞社・静岡放送	取締役東部総局長
千葉 慎二	(株)AS-SZKi	代表取締役社長
佃 弘巳	伊東市	市長
辻 明久	(有)メイク・エンタープライズ	代表取締役
土屋 順一	東海建設(株)	代表取締役
土屋 正	(株)伊豆フェルメンテ	代表取締役社長
土屋 俊幸	(株)静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役
土屋 幹夫	(株)幹洋堂土屋新聞店	代表取締役
土屋雄二郎	雄大(株)	代表取締役
土屋龍太郎	土屋建設(株)	社長
堤 親朗	(株)イブラシ	代表取締役
鳥井 明典	鳥井明典法律事務所	弁護士
永倉 聡	沼津通運倉庫(株)	代表取締役社長
長島 郁夫	静岡県下田土木事務所	所長
中島 勉	キリンビール(株)	営業部長
中島 萌	(株)特電	代表取締役
中嶋 三恵	(株)山六ひもの店	代表取締役
中島 麗子	中島水産(株)	代表取締役会長
中野 篤	静岡県東部農林事務所	所長
中山 勝	(財)企業経営研究所	常務理事
成川 昭雄	(株)エム・エス・エス	常務取締役
西岡 直樹	大和ハウス工業(株) 沼津支店	支店長
西川 泰正	静岡県富士土木事務所	所長

氏名	会社名	役職
西島 昭男	(株)シート	代表取締役社長
西島 洋司	医療法人社団親和会 西島病院	理事長
西山幸三郎	東海大学開発工学部	学部長
野沢 和俊	静岡県富士農林事務所	所長
野村 寛	芝川町	町長
野村 玲三	(株)野村商店	代表取締役社長
野本 方子	(株)コーリキ	社長
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長
林 光珠	(株)甲子園	代表取締役
林田 充	(株)JTB中部 沼津支店	支店長
原 浩之	学校法人 原学園 専門学校白寿医療学院	理事長
原口 護	富士商事(株)	代表取締役
原田 誠治	静岡新聞社	主筆
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
兵藤 真一	東方之光(EMO-INTERNATIONAL)	広報担当
日吉 公男	静岡県工業技術研究所 富士工業技術支援センター	所長
平野 幸雄	富士通(株) 静岡東部支店	支店長
深澤 進	松崎町	町長
深田 徹	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長
福島 数男	東部地域支援局	局長
福田 昌明	Knt!近畿日本ツーリスト 沼津支店	支店長
藤井 明	米久(株)	代表取締役社長
藤井 武彦	西伊豆町	町長
藤浪 譲治	SBSメディアサービス(株)	代表取締役社長
別宮 章夫	大東紡エステート(株)	取締役社長
細澤 道生	静岡放送	報道制作局長
堀内光一郎	富士急行(株)	取締役社長
前野 克己	静岡ガス(株) 東部支社	常務執行役員東部支社長
牧野 健二	静岡県熱海土木事務所	所長
松井 純	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長
松田 達也	ネットトヨタ静岡(株)	代表取締役社長
松永 憲明	賀茂地域支援局	局長
三澤 清利	特種製紙(株)	代表取締役社長
三谷 充弘	特種製紙(株)	執行役員
道下 和幸	ホテル・オペレーション沼津機 沼津東急ホテル	総支配人
峰田 武	三島市観光協会	会長
宮城島安宏	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
三輪 俊城	ホテル沼津キャッスル	代表取締役
村田 潔春	静岡新聞社・静岡放送	営業局長

幹事・委員

●サンフロント21懇話会幹事(50音順・敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
石田 岳彦	株CFSコーポレーション	代表取締役会長兼社長	横浜市
遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭	富士市
尾形 充生	(株)静岡中央銀行	取締役相談役	沼津市
岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長	沼津市
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長	伊東市
佐藤 隆泰	株静岡銀行 東部カンパニー	常務執行役員	沼津市
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長	沼津市
藤井 明	米久(株)	代表取締役社長	沼津市
三澤 清利	特種製紙(株)	代表取締役社長	駿東郡
峰田 武	三島市観光協会	会長	三島市
矢田部正巳	三嶋大社	宮司	三島市

〈地域支援局〉

松永 憲明	賀茂地域支援局	局長
福島 数男	東部地域支援局	局長

〈アドバイザー〉

大坪 檀	静岡産業大学	学長
坂本 光司	法政大学大学院	教授

〈常任顧問〉

伏見 一成	静岡新聞社・静岡放送	取締役浜松総局長
篠原 光秋	(株)エスピーエス情報システム	代表取締役社長

●サンフロント21懇話会運営委員(50音順・敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	沼津市
池田 誠	池田病院	院長	駿東郡
内田 隆久	伊豆一不動産(株)	代表取締役	伊豆の国市
宇野 統彦	(株)桃中軒	社長	沼津市
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役	三島市
片山 劼	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長	伊東市
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長	裾野市
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	駿東郡
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	下田市
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長	三島市
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長	沼津市
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長	沼津市
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役	三島市

〈TESS構成員〉

西島 昭男	(株)シード	委員長
羽野 久雄	羽野水産(株)	顧問
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	顧問
内田 隆久	伊豆一不動産(株)	委員
宇野 統彦	(株)桃中軒	委員
諏訪部照久	(株)スワベ商会	委員
小野 徹	小野建設(株)	委員
大石 人士	(財)静岡経済研究所	研究員
影山 武司	(財)静岡総合研究機構	研究員
中山 勝	(財)企業経営研究所	研究員
青山 茂	(株)シード	研究員



平成 20 年度を振り返って

サンフロント 21 懇話会運営委員長
あさひ総合法律事務所 所長

井口 賢明

昨年は、「ねじれ国会」に耐え切れなくなった福田政権が志半ばでリタイア。秋には麻生新総理・総裁が誕生し、すくなくても解散総選挙を実行すると思いきや海の向こうアメリカのリーマンブラザーズに端を発した金融不況が勃発し、100年に1度とまでいわれる未曾有の経済恐慌の波が押し寄せてきました。この波は日本や一部地域にとどまらず、全世界にと広がり、「世界同時不況」の様相を呈しております。国民にとってはまさに非常事態であり、生活を直撃しております。企業倒産や企業の雇用調整が一段と深刻さを増し、国の支援なくしては立ち行かない状況下にあります。そんな中、与野党の政権争いがにわかに騒がしくなり、「政局より政策」と唱える麻生首相の政治判断が今まさに求められております。

県東部地区においても厳しい状況が続いており、特に自動車関連の製造業が多数存在するこの地域は大きな打撃を被っています。非正規雇用ばかりか正規雇用までも生活を脅かされる事態となっております。少しでも早い回復を願うばかりです。

さて、サンフロント 21 懇話会は本年度で15年目の活動に入りましたが、20年度事業では7月に東部地区分科会で「道州制って何?—あすの都市づくりを考える—」をテーマに将来の道州制導入に備えた体制づくりを議論し、広域行政の合併が何よりも大切であることを確認しました。10月の伊豆地区分科会は「富士山静岡空港開港カウントダウンシンポジウム」と題し、県からの最新報告、基調講演とパネルディスカッションを開催。12月の運営委員会全体会では「平成21年度活動方針案」を提示。記念講演では作家で評論家の佐高信氏を招き、「平熱の思想家、福沢諭吉—その在野精神と時代—」をテーマに鋭い切込みを交えた講演を頂きました。今年2月には東部地区特別シンポジウムと銘打って「富士山静岡空港開港カウントダウンシンポジウム第2弾」を開催。富士山静岡空港がもたらす効果を生かすための議論が出されました。3月には、富士市で「富士山静岡空港開港カウントダウンシンポジウム第3弾」と題し、富士・富士宮地域が抱える問題の検証と将来ビジョンについて様々な意見が出されました。

各地区分科会、講演会は会員の皆様方の強力なご支援、ご尽力により、いずれも順調に開催できたと感謝しております。懇話会は、本年度も魅力ある東部地域を作り出すにはどのような方策が有効か議論を深めていきます。21年度は前年度のテーマから一步踏み込んだ「富士山静岡空港の利活用と差別化戦略」を懇話会の共通総合テーマとし、ファルマバレープロジェクトの推進支援をはじめ、広域行政の推進支援、富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進、東部地区におけるコンベンション機能の促進、そして、Mt.FUJIエコサイクリングへの支援の5つのテーマを掲げ、大いに盛り上げていく所存であります。会員の皆様方にはこれまでの活動に対するご支援に対しまして深く感謝申し上げますと同時に、今後もさらなるご理解とご協力を賜ることができればと存じます。本年度も宜しくお願い申し上げます。



■ 発行／平成21年 5月20日
〒410-8560 沼津市魚町1番地サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送東部総局内 サンフロント21懇話会事務局
TEL.055-962-6520

<http://www.sunfront21.org/>